学生消防団員発!南丹地域における防災啓発活動の推進 -防災コミュニティ構築により災害における孤立集落ゼロを目指す-

瀬野 遥」) 関根 希思!) 木村 隆彦(指導教員) 南丹市学生消防団員「) 明治国際医療大学 保健医療学部 救急救命学科!)

南丹市消防団学生部について











地域で取り組む訓練概要





明治国際医療大学に所属する消防団員は64名で、広報活動や防災訓練指導、ひとり暮らし高齢者宅の防火訪問などを行っている

本プロジェクトの目的

学生消防団員と大学や自主防災組織、高齢者団体、行政が連携し、防災学習や 訓練等を通じ、災害で孤立の可能性がある地域の住民と顔の見える関係を構築 し、災害時には共助を前提とした安全確保と被害状況や公的支援の要否等の情 報収集が円滑に行えるシステムを確立し、当地域での孤立集落ゼロを目指す

南丹地域を地形学的にみると

- 令和6年能登半島地震では孤立地域が多発
- ⇒中山間地域の南丹市も同じことが起こる ⇒う回路がない地域では情報が届かない
- ⇒高齢化により災害時要配慮者が多数在住

小集落の孤立が多発 中山間地域の特徴



420人 道路が寸断されると、その先の集落は孤立する *南海トラフ 6弱



・災害に巻き込まれない行動⇒事前準備 ・地域の友人同士で見守る⇒お友達作戦

南丹地域(中山間地域)は、このような集落が多い

1. 防災・避難訓練 南丹市内4組織に対し、住民による救助・避難訓練を実施 2. 情報収集・発信 防災情報の収集と被害情報収集・発信を見据えた座学実施

小規模集落が孤立した場合の快適な避難所つくり勉強会

どこに行っても高齢者が多い⇒高齢化率が高い

*情報収集は衛星通信や無人航空機の活用も検討

				要介護認定者数調べ(南丹市)				
	南丹市	園 部	八木	日吉	美 山	認定者数	令和3年度	令和4年度
丰度末	30, 597	15, 632	6, 951	4, 506	3, 508	事業対象	98	92
55 歳以上)	(11, 004)	(4, 513)	(2, 859)	(1, 967)	(1, 665)	要支援丨	210	220
丰度末	30, 242	15, 569	6, 846	4, 418	3, 409	要支援2	500	520
65 歳以上)	(10, 912)	(4, 508)	(2, 801)	(1, 959)	(1, 644)	要介護丨	297	
率〉						要介護2	476	453
	南丹市	園部	八木	日吉	美 山	要介護3	400	422
	36.0%	28. 9%	41. 1%	43. 7%	47. 5%	要介護4	296	
 ∓度末	36.1%	29.0%	40. 9%	44. 3%	48. 2%			
1				•-		要介護5	206	210
南	丹市地	区别	高齡	化率		合 計	2,483	2,480

高齢者による 令和6年度京都府調べ 高齢者支援の充実が喫緊の課題!

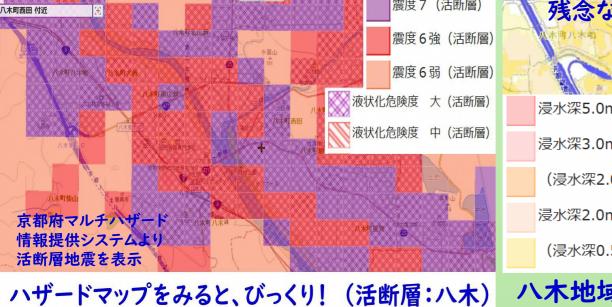
・早めの防災情報収集 一 → 声掛けで早期避難

・高齢でもできる!

避難の原則を順守

地域の役員に相談 ⇒・これまでもスマホ教室をやったが高齢者には操作が難しい ・収集した防災情報が違っていたら問題が起こる 米否定的

スマホ訓練の第一歩 生活する地域の災害予想を学ぶ!



残念ながら参加者の家は軒並み水没する 情報提供システムより 水害を表示 浸水深5.0m以上 浸水深3.0m~5.0m未満 (浸水深2.0m~5.0m未満 浸水深2.0m~3.0m未満

ハ木地域の洪水予想 中心街は3m以上浸水

災害例から何が起こるのか考える 死亡した場所



家屋 | 階 42名 家屋2階 屋外

高齢者 36名 70.6% 避難行動要支援者 42名 82.4%

命を守るためにやることは?

- ・早めに避難する
- ・正しい情報を集める
- ・友達に伝える(誘う)
- ・日頃から災害に備える
- ・地域の災害の歴史を振り返る
- ・次世代に災害の歴史を伝える ・訓練に積極的に参加する

⇒ 小規模防災訓練ありきから情報収集・発信訓練(スマート防災訓練) 本プロジェクトの方針を一部変更! *学生の得意分野を活用すれば効果大!

スマート防災の実践!! 次のことを教える ①スマホの使い方 ②防災情報の収集要領 ③SOS発信方法 学生消防団員の挑戦

5 緊急安全選挙 黒は垂直避難! 冠水路は歩くな!!

最初に作成したチラシ 防災広報とQRコードを入れて 高齢者に配布することを検討

スマート防災I回目(QRコードの活用) 学生の良き理解者である祖父母を対象

にチラシを使った情報収集を試行した 祖父母の率直な意見

- ・チラシを常に携帯するのは無理
- ・どれが必要なコードなのか分からない
- ・リンク先を読み込む操作が面倒
- ・「同意する」などの文言があると不安
- ・文字が見えにくいため時間がかかる

地域の方々への聞き取り調査の結果

地域の高齢者グループの会合に参加し、 スマートホンの使用状況を調査した

- ・高齢者もスマホ使用者が多い
- ・連絡ツールとしてLINEを使っている
- ・地域内に複数の高齢者グループがある
- ・複雑な使い方はしない(できない)
- ・毎日使わないと操作方法を忘れる
- ・アイドルの押し活に便利(意外!)

スマート防災訓練3回目(高齢者サロンA)

・アプリ取得にも時間がかかる ⇒QRコードが便利 🕹

・アプリってなに? ⇒ここから説明が必要

⇒機種や設定の違いに対応が必要

・チャット機能では文例があれば嬉しい

⇒一緒に避難しよう! 誰か手伝ってよ!

・画面の文字が小さく見えない

⇒試行品の作成 親しみやすく

⇒アプリ開発業者と交渉

⇒学生、市役所防災部局職員、地域 高齢者数名で試用し意見収集

■安心なくらし"ナンでも・か スマート防災訓練 LINEを使っている高齢 者が多く関心度が高い

防災アプリ

安心なくらし

ナンでも・かんタン

⇒アプリ修正し、スマート防災訓練実施

高齢者が使えるスマート防災は?

祖父母と地域高齢者の意見をもとに

スマート防災訓練の方針を検討した

LINEアプリがあれば全て解決する!

スマート防災訓練4回目 (高齢者サロンB) アプリアイコンが目立たない

- ⇒見やすい色調査を行い、赤紫系に決定
- ⇒「ピン止め」機能を活用し、アイコンをトップに配置
- ⇒・健康系、チラシ系の情報を入れると日常使い可能
- ・2回目の講習意見に基づきアプリの仕様を改善
- ・学生の指導技術向上により受講者の理解度が向上

・声を掛け合って、早めの避難に繋がる!

- 防災アプリ使用の効果 1. 防災情報の一元管理により、必要情報を短時間で収集可能
- 2. 特定地域に特化するカスタマイズ可能(親しみやすさ向上)
 - ⇒健康系、チラシ系など地域情報を充実させる

スマート防災訓練2回目(高齢者リーダー対象)

・日常的にLINEを活用⇒基本操作は困らない

・参加者全員が「大雨警報がでると不安」と告白

自助、共助を理解すると積極的に情報を収集

・試用版の感想を聴取⇒こんな機能が欲しい

⇒強がって誰にも言ったことがないらしい

- ⇒カレンダー機能に地域イベント情報を反映させる
- ⇒文言や表現を地域特性を生かした内容にする
- 3. 仲良しグループ限定でアプリを共有すると「見守り」が可能 ⇒通院情報や行事予定などを共有すると声かけに繋がる
- ⇒災害が迫ると避難準備の呼びかけや避難先の共有が可能 4. スマートウォッチと連動させるとSOSや健康管理機能が向上
 - ⇒将来的にデジタル機器に慣れた高齢者が増えると、様々な 機器を連動させて活用することが可能となり、災害発生後 の避難生活の質向上に繋がるポータルサイトとなり得る

- ・高齢者も操作指導によりスマホ活用が可能
- ・自分たち用にカスタマイズすると興味を持つ
- ・日常使用ができれば操作忘れを予防できる
- ・従来の防災訓練に代わる新しい訓練になり得る
- ・地域に特化したアプリほど効果が高い
- ・アプリの活用により災害時の孤立を防ぐことや、 支援の要否、必要支援物資の情報共有ができる
- ・技術の進歩に合わせて防災も進化が必要 ・地域の仲間と訓練に参加すると、災害を自分事
- と捉えやすく、共助に基づく防災意識が向上する ・普及にはアプリ作成費、維持費の支援が必要

消防情報 きょうと

スマート防災用アプリ